

特別支援教育の視点 (ユニバーサルデザイン)

特別支援教育が培ってきた指導の方法や視点を活かし授業づくりを進めましょう。



誰にでも分かりやすい授業 どうしたらいいの？

授業のユニバーサルデザインの7原則

- すべての児童生徒が学びに参加できる授業
- 多様な学びに対し、柔軟に対応できる授業
- 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定が準備されている授業
- 欲しい情報が分かりやすく提供される授業
- 間違いや失敗が許容され試行錯誤をしながら学べる授業
- 現実的に発揮することが可能な力で達成感が得られる授業
- 必要な学習活動に十分取り組める課題設定がなされている授業

特別な支援が必要な児童生徒の学びやすい授業は、
全ての子にとって学びやすい授業

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり 12 のポイント

1 教室環境①
「場の構造化」

2 教室環境②
「刺激への配慮」

3 ルールの確立
「手順や行程」

4 生活の見通し

5 授業の見通し

6 授業の組み立て

埼玉県立総合教育センター
学力向上BOOKLET

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり12のポイント

誰にでも分かりやすい授業
どうしたらいいの？

1 「通常の学級に特別な支援を必要とする児童生徒」が多数在籍している
小・中学校… 6.5% (文科省 H24.12月公表)

2 特別支援教育のノウハウやアイデアが蓄積されている

平成19年度から特別支援教育が本格的にスタートして以降、特別教育的ニーズのある児童生徒への療育の特性に応じた対応や有効な指導方法、支援のあり方についての研究・開発が急速に進んできました。そうした中で、通常の学級における発達障害のある児童生徒への指導・支援が他の児童生徒にも有効であるという実証が多くみられるようになりました。

特別支援教育の視点を活かした授業づくりは、「全ての児童生徒にとって分かりやすい」ということであり、「授業のユニバーサルデザイン」と呼ばれています。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業は、「配慮を要する子」には「ない」と否る」支援であり、どの子にも「あると便利な」支援とも言われています。

特別支援教育が培ってきた指導の方法や視点を活かした授業づくり

授業のユニバーサルデザイン
→要件・要点を整理しました

特別教育的ニーズのある児童生徒を育むための授業づくりの「12のポイント」を紹介しています

埼玉県立総合教育センター
Education Center

平成25年3月

7 板書の工夫

8 集中・注目のさせ方

9 指示の出し方

10 参加の促進

11 個人差への配慮

12 学級モラルの形成

通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の指導・支援の充実とともに授業改善のポイントとして活用できます。